

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinihongokuyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話(714)527-1456

Eメール: sugimura1950@gmail.com

◎石叫 ■

「旧樺太残留日本人」

ウクライナで生活していた旧樺太(サハリン)残留日本人の男性が十九日、戦禍を離れて祖国に帰ってきた。これまで、第二次世界大戦とロシアのウクライナ侵攻という2つの戦争に翻弄された男性。旧樺太で灯台守をしていた父を持つウクライナ国籍の降旗英捷(ふりはた・ひでかつ)さん(78)は母の実家がある長野県で生まれると、まもなく旧樺太へわたった。終戦後、樺太は旧ソ連に占領されたが、一家は兄のけがや妹の出産などもあって引き揚げができず、ソ連政府から帰国も許されなかった。一家は一九五四年にソ連国籍を取得、降旗さんは製紙工場技師を経て、七十一年からはウクライナ西部ジトミルで機械製作関係の仕事に就いた。その後、きょうだい5人は相次いで日本へ帰国したが、降旗さんは家族の意向でウクライナに残っていた。二月二十四日のロシア軍によるウクライナ侵攻で一変。穏やかな日常は壊された。妻は三年前に亡くし一人暮らしの降旗さんは、孫のデニスさんから日本政府が難民を受け入れていると聞いて日本に向かうことを決意する。今月五日午後、日本大使館のあるポーランド・ワルシャワへ親族の車で出発。約650キロの道のりを進んだが、車が故障したり、渋滞に巻き込まれたりもした。この間、日本では、日本サハリン協会が降旗さんへの募金を呼び掛け、約200人から支援が寄せられた。降旗さんはようやく十九日午後、約20時間の搭乗を終えてデニスさんの妻・インナさん、孫のウラジスラフさん、ひ孫のソフィアさんと成田空港に降り立った。兄の信捷(のぶかつ)さん(80)と妹の畠山レイ子さん(70)を迎えられた。人生のほとんども海外で過ごした降旗さんは日本語が話せない。旭川市内で1週間の待機期間を送り、「状況が落ち着いたら人生の大部分を過ごしたウクライナへ帰りたい」という。(二〇二二年三月十九日『産経新聞』)

降旗さんは、愛する家族を戦火から救うために日本に向ったのだが、創世記には「こうしてイスラエルの子らは穀物を買おうと人々に交じってやってきた。カナンの地にききんがあったからである」(四二・5)とある。イスラエルは家族を飢饉から救うためにエジプトに送った。私たちは愛する者を生かすために生きていく。否、その時のために生かされているともいえるのではなからう。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。